（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　平成27年9月11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4690101060
法　人　名	社会福祉法人　陽明会
事 業 所 名	グループホーム下田温泉の郷
所　在　地	鹿児島市坂元町1087-1 （電 話）099-210-7431
自己評価作成日	平成27年8月1日

※事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

設立から約1年半しか経っていない事もあり、施設内設備等まだ綺麗であり気持ち良く過ごして頂ける環境と言える。また、耐震・防炎にも優れた強固な作りになっており、風災害時には入居者様のみならず地域の方々の避難場所としても有効であると考えている。高齢者が親しみやすい和風のイメージで設計された落ち着いた雰囲気で、窓から見る稲荷川の風景と鳥のさえずりを聴くことで、当グループホーム理念でもある「ゆっくり、のんびりその人らしく地域生活を楽しむ」が実感して頂けていると思います。職員18名中11名が介護福祉士取得者であり、質の高い介護サービスが提供できており、入居者様一人一人がご自分のペースでのんびり過ごして頂けるよう、急かさない援助をスタッフ全員が心掛けている。
また、施設に管理栄養士を配置する事で日常的に食事内容が検討され、バランスの取れた食事提供ができている。健康面についても、１日２回以上施設医に入居者様の状態報告を行っており、異状の早期発見、対応ができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

開設2年目を迎えた当ホームは、鹿児島市北部に位置し、災害に備え耐震構造を重視した２階建てになっており、１階には法人のディサービスが併設されている。居室やリビングの窓越しからは稲荷川のせせらぎが聞こえ、辺りは季節の移ろいを感じ取れるのどかな環境にある。
食事の提供には特に力を入れており、明日の元気の源は今日の食事と捉え、管理栄養士が作成したメニューに沿って、バランスの良い、出来立ての食事を提供している。また、月に1回は利用者の希望や好みに応じ、焼きそばやお好み焼きなど目先を替え、利用者も共に作るなどし、年間の行事食も含めて食事が楽しみな時間になるように随所で工夫が感じ取れる。看護師を中心に利用者の状態変化を把握し、定期往診の他、日に２回、状態報告を行い医療との連携を密に行っており日々の健康管理も徹底している。
新体制の職員配置の下、外出支援の取り組みとして、おやつの買い出しに利用者も一緒に行って選んだり、受診時を利用してドライブを楽しむなど、日常のわずかな時間でも外出の機会を持てる様に管理者を中心に、職員は日々、努力をしている。
理念にある「ゆっくり　のんびり　その人らしく地域生活を楽しむ」を念頭に、地域や家族との繋がり、信頼関係をより深く得られる様な取り組みも視野に入れながら、今後の展開が益々、楽しみなグループホームである。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、その人らしく地域生活を楽しむ。」という理念をユニット内に掲示し、地域の中でご利用者が馴染みのスタッフと一緒に御自分のペースで安心・安全に生活して頂くという意識をスタッフ全員が共有している。	開設時に法人本部と職員で話し合い、地域密着型の意義を踏まえた理念を掲げている。職員は出勤時に各自が心の中で理念の確認を行い、利用者のペースに合わせ理念に基づいたケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区民生委員の方は同じ道路沿いに住んでおられることから、地域的な話題で（水田や菜園など）コミュニケーションを取る事ができている。また、運営推進会議を通じ町内総会、町内清掃に参加しており、２７年４月より町内会への加入もしている	地区の町内会に加入し、清掃活動や総会に参加するなど積極的に地域に溶け込む努力をしており敬老会への招待もある。ホーム独自の防災訓練にも地域住民の参加を予定しており、今後は回覧板の活用や地域に向けたホーム通信の発信も検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の中で、認知症高齢者介護・感染症予防・栄養管理について、なるべく地域でも役に立つ内容で展開している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の目的や意義は浸透してきており、率直なご意見も頂いている。そのことをミーティング等で協議、検討を重ね、サービス向上に努めている。	利用者も意見を述べる場になっており、家族、行政、地域代表などの参加を得て開催されている。職員の紹介プレートの掲示や、ホームでの利用者の生活を写真集にするなど、意見を反映させている。家族の参加増員や多方面からの出席者を得る為にも、開催内容の見直しも視野に入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる。	昨年9月の地域清掃作業に参加し、４月には年度初めの定期総会にも出席し、今年の9月の地域清掃にも参加を予定している。	担当窓口には直接、管理者が出向くことが多く、相談や情報交換など双方で良好な協力関係を築いている。運営推進会議には地域包括支援センターの職員の参加も得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、身体拘束を選択しない方法で日々のケアを行っている。今月スタッフミーティングで勉強会を予定している。また、身体拘束廃止宣言を掲示し意識を高めている。	車椅子や転倒リスクの高い利用者も居り、スタッフ間で連携を密にした見守りが行われている。殆どの職員が有資格者であり身体拘束に関しての意識、知識を高く持ったケアに当っている。身体拘束委員会の設置や研修を増やすなど管理者は身体拘束の弊害を職員に浸透させる努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティングにおいて高齢者虐待防止関連法についての勉強会予定。また日々の業務の中で、虐待にならないかをチェックしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護に関するマニュアルを準備しスタッフミーティングでの読み合せでその重要性を確認している。また今月成年後見人制度についての勉強会を開催予定。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用契約・改定時には、家族と面談を行い、サービス内容・利用料金・利用者情報・緊急時の対応及び解約方法等の説明を十分に行い、理解・納得をしてから、署名・捺印を頂いている。退居時には解約に入る前に家族面談を行なうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	何でも言いやすい雰囲気作りを心がけており、面会時や近況報告の際にも率直な意見・要望を聞き取るよう心掛けている。その内容を経過記録に記入しケアカンファレンスで検討事項として取り上げている。また、ご意見箱を設置している（現在のところ実績なし）。	面会や家族会の機会を意見や要望の聞き取りの大切な機会にしている。外出支援の要望が出され、おやつの買い出しや受診時にドライブを兼ねるなど、わずかな外出でも職員が一丸となって取り組み、サービスの向上に繋げている努力が伺われる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月１回開催されるスタッフミーティングの中で各スタッフから意見を出し合い決定するようにしている。	管理者が代わり、新体制の下、研修の充実を図っており、月１回のミーティング時には意見やアイデアを出し合い、サービスの質の向上に繋げている。子供のいる職員の為に、託児所を完備し働き易い労働環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	苑長・副苑長にて定期的に職員面談を実施し、介護業務での悩みや感じている事に対しアドバイスや提案をしやりがいを持って業務にあたれるように努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部である特養下田苑にて毎月研修が実施されており、職員が積極的に参加できる環境が整っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営開始前ではあるが、見学、情報収集、アドバイスを頂く為にいくつかの他のグループホームへ訪問を行った。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取りによる実態調査を行ない、利用以前に行なっていた趣味や仕事・生活習慣を把握して、それに基づいた対応やケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りによる実態調査を行ない、家族の要望等に基づいた対応やケアを実施し、不安解消につながるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を通じて、グループホームでできる支援の中で、どれが必要なのかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ゆっくり、のんびり、その人らしく地域生活を楽しむ」を念頭に置いたケアの実践を心掛けており、一緒に生活しながら、喜怒哀楽を共にしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面談時において、本人の現状を共有し、今後の方向性等を確認している他、職員と一緒にできる援助を日課として組み入れて実践している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の親戚・友人・知人の面会があった場合は気軽に再度訪問して頂けるように声かけを行なっている。	家族の面会は常時であり昔馴染みの知人や遠方の親戚の来訪もある。受診時に墓参りをしたり、盆、正月には自宅に帰る利用者も居り、これまでの馴染みの人や場所との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員参加は難しいが、できるだけ多くの利用者が参加できるグループワーク（歌・ゲーム等）を心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、訪問・面会を行なっている他、ご家族からの電話連絡にも対応している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者それぞれを担当制にして、日々の生活の中で少しの変化（表情を含む）に気付けるように状態観察を行なっている。また、その状況を経過記録や申し送りノートに記載することで、情報を共有し、ケアカンファレンスにおいてケアの統一を	基本情報や家族からの聞き取りだけに頼らず、常に日々のケアの中でコミュニケーションを大切にしており、表情や所作からも汲みとる努力をしている。特に１対１で接する夜間帯や入浴の時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談員からの情報収集やご家族・ご本人との面談を行い、アセスメントを作成し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌を作成する中で、一日の過ごし方や心身の状態を記録し現状の把握に努め、そのことを全職員で情報を共有化している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月毎のケアカンファレンスにより、その方の最新のニーズに合わせてケアプランに反映できるようにしている。また、ご家族面会時などで家族からみて感じる変化なども聞き取り行いケアに反映するよう心掛けている。	利用者、家族の希望を採り入れケアチェック表などを下に、カンファレンスを行い介護計画を作成している。月１回のモニタリングで現状に即した計画になるように努めている。身体状況のみならず、趣味や趣向、他者との関わりなど利用者主体の暮らしを反映できるプラン作成を目指している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や管理日誌に記載して、職員間の情報の共有化を図り、日々のケア提供や介護計画に結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問での美理容を依頼しご本人の好みに合わせて散髪・染髪して頂いている。また、希望者を募り日曜日など同施設の１階に位置するデイサービスが休みの時に限り、１階大浴場にて温泉入浴するなどしここでしか出来ない取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の了解を頂き、運営推進会議への参加をしていただき、意見を頂くようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は希望や状況に応じて随時、対応している。協力病院の他、内科・脳神経外科等、入居以前からのかかりつけ病院を受診できるようにしており、その際、原則家族への同行をお願いするが、行けない場合はスタッフが対応している。	看護師の配置もあり、主治医の往診や問診など、日常的に医療との連携がとれており、利用者の健康管理は密に行われている。車椅子の利用者も居り、受診や通院の支援は状況に応じホームで柔軟に対応している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段より協力病院の看護師、また本部である下田苑の看護師にも相談、助言を頂き関係作りを構築していけるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との提携があり、利用者が入院した時には、事業所から情報提供を行ない、退院時には病院から情報提供を受けている。また、入院中には、職員が本人の精神的安定と状況把握のために面会し、早期退院を目標としている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状況に応じて、適切な段階で、ご家族・主治医・運営者・管理者・職員とよく相談が行なわれており、終末期に向けた方針の共有が行なわれている。また、状態変化があった場合、その都度話し合いによる方針の確認が行なわれている。	重度化や終末期に向けた方針は重要事項説明書に明記しており、入所時に家族には説明し同意を得ている。医療施設や法人の施設へ繋ぐなど段階に応じ、主治医の指示の下、家族の意向を確認しながら、職員も方向性を共有しホームで出来得る最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、ミーティングにおいて、職員の研修を行なっている他、法人の研修に職員が参加している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施。本年度は河川氾濫災害を想定した避難訓練を実施し、職員の防災への意識を高めている。	年２回の定期訓練の他、ホームの下を流れる稲荷川の氾濫を想定して水難訓練も実施している。近隣住民の参加を得た防災訓練を予定しており、災害時の地域住民の役割分担と緊急連絡網の作成も視野に入れている。地域との協力体制の構築が期待される。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報取り扱いのマニュアルを作成。ひとり一人に尊厳を持って接し、会話の内容や言葉使いに配慮している。	居室は、寝室と居間を仕切る２部屋の構造になっており、排泄時の対応や身支度など、よりプライバシーが確保できるように配慮されている。言葉使いや対応にも常に個々の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の図れない利用者は、好きな歌や家族の話題等をお伝えすることで、表情の変化から本人の思いを汲み取る努力をしている。会話のできる利用者の場合は、コミュニケーションを密し、グループワークへの参加等、自己決定できるようにして		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな流れはあるが、食事や入浴等を含め、本人の希望する過ごし方・ペースを尊重し、その日を快適に、安心・安全に生活できるような支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣替えの時には、本人が好まれる色あいの衣類を家族に依頼している。また、一日3回の整容の時間を大切にしている他、希望する理美容店がある利用者以外は定期的に理美容サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には、配膳・下膳を手伝って頂いている。食事メニューも管理栄養士の作成する献立に基づき栄養バランスの取れた高齢者向きになるように配慮している他、食事形態は、利用者一人ひとりに合わせたものにしている。また、食事の時間は利用者と職員が一緒に食事できるようにしている。	「明日の元気は今日の食事」という運営者の強い想いから、バランスのとれた出来たての食事が提供されている。利用者も共に作る焼きそばやお好み焼きも目先を替えて喜ばれている。年間を通した行事食やピクニック弁当など食が楽しくなる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事・水分摂取量を記録している他、補食としてエンシュア等を利用している。栄養バランスについては、管理栄養士に定期な栄養指導を受けている。体重測定と血液検査を定期的に実施しており、必要に応じて主治医の指示も受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の全介助・一部介助・促しの声かけ等による毎食後の口腔ケアを実施している他、夕食後は義歯洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、本人の身体機能に配慮した援助を心掛けている。時間にとらわれず、本人の尿意・便意訴え時に対応し、尿意・便意の無い方の場合は声かけトイレ誘導を行なっている。また、紙パンツから布パンツへ移行する等おむつ離れにも取り組んでいる。	個別の排泄チェック表を下に、殆どの利用者が日中はトイレでの排泄ができている。下肢筋力を鍛え夜間はリハビリパンツだった利用者が布パンツに改善した例もあり利用者の自信や誇り、職員のやりがいに繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促したり、野菜等繊維質の食べ物の提供を心掛けている。また、便座に座られた時には腹部のマッサージを行なっている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	その日の利用者の体調や状況に合わせて入浴を楽しめるように支援している。また自力で浴室に入る事が困難な方には陽だまり浴室に設置しているリフト浴器で安心して湯船に浸かって頂いている。	浴槽をまたげない利用者でもゆったりと入浴を楽しんで貰えるように、リフト浴も完備している。入浴を拒む利用者には気の合う利用者の協力でスムーズに入浴してもらえるようになった。日曜日は１階のディサービスの温泉浴を楽しむ利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の生活パターンを優先し、体調や覚醒状態によって午後からはそれぞれの居室での仮眠時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理ファイルしている他、内服薬の変更があった場合は、その日に全職員に発信する等、職員間の情報の共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が洗濯物たたみ等できることはしてもらったり、一人ひとりの趣味や生活歴に応じた楽しみ事を職員が一緒になって支援している（習字や活花など）。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や利用者の体調に応じて、近辺の散歩やドライブ、買い物など外出支援を行なっている他、車椅子利用の方にも日光浴をして頂くようにしている。初詣や桜の花見など季節に応じた取り組みを実施している。	ホーム周辺の自然の景色を見ながらの散歩は日常的である。年間の外出計画に沿って、初詣や水族館、お祭り見学など季節に応じた外出を実施している。おやつの買い出しや、受診時のドライブ等、職員はわずかな時間を利用し、希望に添える様に最大限の外出支援に努めているが、利用者や家族のアンケート希望に挙がっている、気軽で柔軟な外出支援とはいいがたい。	年間計画以外にも個別の外出希望や、その日の天候、利用者の健康状態を踏まえ、職員体制を工夫するなどし、希望にあがっている気軽で柔軟な外出支援の取り組みを期待したい。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段から自身でお金の管理をしている入居者はおられず、外出の際に決まった額での買い物をして品選び・支払い等の楽しみを感じて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話対応のできる方は少ないが、希望時にはスタッフが家族に電話をかけて本人とつなぐようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、家具やソファ等を使用し、自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。共有部分には、花を飾り、季節を感じられるようにし、リラックスできるようにしている。また、天気の良い時はベランダでもくつろげるようにし、外の風景を楽しめるようにしている。	食事のダイニングスペースとくつろぎの談話コーナーが独立した造りになっており、要所にソファーが置かれ利用者は好きな場所でゆったり過ごせている。ホーム全体が掃除が行き届き清潔感がある。日々の生活に変化を感じられる様にテーブルの配置にも工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは別に談話コーナーを設けており、釣り番組など趣味のテレビ番組を観たり仲の良い他入居者との談話を楽しんだり、なるべく本人ペースで過ごして頂けるよう援助している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が馴染みの家具や衣類の他、大切な家族の写真等が多数持ち込まれており、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、自宅と変わらない雰囲気になるようにしている。	仕切り戸を設け寝室と居間の二部屋を備えた造りになっており、よりプライバシーが保たれている。家族写真やテレビ、馴染みの箪笥などを持ち込んでいる。位牌を置き朝夕、拝む利用者もおり、個別性があり安心して暮らせる居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は全てバリアフリーになっている他、ほとんどの通路に手すりが設置してある。また１ユニット内の５つのトイレには車椅子でのアプローチが容易にできるよう設計しており安全な生活環境が維持されている。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない